

## つなぐ

### 地域の「ひと・こと・もの」が生きるCSの確立

10月28日(木)、講師に愛知教育大学の風岡治先生を迎え、福江中学校体育館で福江中学校コミュニティ・スクール(以下CS)の研究発表会が開催されました。研究の概要発表の後、田原市内の教員、コミュニティ協議会会長や学校運営協議会委員など地域の方とCSについて語り合いました。

この研究発表会を通して、CSを更に進めて行くには、関わっていただける方々でじっくりと話し合い、思いを共にすることの大切さを改めて実感しました。山本校長は、挨拶の中で「…本校の目指すものは、地域を愛し、地域に根差していく人の育成にあると思っています。それは、本校だけといった狭い見のものではなく、市内の小中学校、高校が目指しているものだと思います。間違っはいけないのは、CSにすることが目的ではなく、CSはその目的を実現するための手段であるということです。…子供の教育を、学校の先生だけで担っていくことは、子どもにとって不幸なことです。学校だけが主語ではなく、地域も主語になる。そうすることが、将来の子どもたちのためになると思っています。…」と、お礼と共に、今後のCSについての熱い思いを語られました。

今後も、皆が「主語」となる活動を推進し、地域・学校をつないで参ります。地域・保護者の皆様、今後も御理解と御協力をお願いいたします。



<風岡先生の講演>



<参観者での語り合い>

## 福江中防災デー

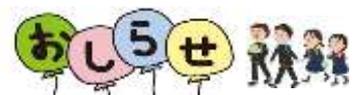


「中学生が防災訓練に参加できるようにしたい。」という地域の声から始まった今回の福江中防災デー。全校生徒が、地域の自主防災訓練(11/14)に参加しました。生徒が参加するということで、各自治会では様々な準備をしていただきました。生徒の感想から、「私たち中学生にも地域の人々のためにできることがたくさんあると分かりました。担架を作って実際に持たせてもらいましたが、2人で協力すると竹と毛布だけで作った担架でも人をしっかり運ぶことができました。高齢の方が多い地域なので、私たちにできることは積極的に行い、助け合っていくことが大切だと思いました。」とあり“地域の一員として地域のために“という思いを強くする姿が見られました。

した。担架を作って実際に持たせてもらいましたが、2人で協力すると竹と毛布だけで作った担架でも人をしっかり運ぶことができました。高齢の方が多い地域なので、私たちにできることは積極的に行い、助け合っていくことが大切だと思いました。」とあり“地域の一員として地域のために“という思いを強くする姿が見られました。

「中学生が防災訓練に参加できるようにしたい。」という地域の声から始まった今回の福江中防災デー。全校生徒が、地域の自主防災訓練(11/14)に参加しました。生徒が参加するということで、各自治会では様々な準備をしていただきました。生徒の感想から、「私たち中学生にも地域の人々のためにできることがたくさんあると分かりました。担架を作って実際に持たせてもらいましたが、2人で協力すると竹と毛布だけで作った担架でも人をしっかり運ぶことができました。高齢の方が多い地域なので、私たちにできることは積極的に行い、助け合っていくことが大切だと思いました。」とあり“地域の一員として地域のために“という思いを強くする姿が見られました。

<渥盛協働本部発行>



全行程 26.8km の2年立志歩行を、12月17日に実施します。福江中校区を歩きます。生徒を見かけたら応援をお願いします。詳細は、12月の地域の回覧をご覧ください。